



仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

個人投資家様向け会社説明会資料

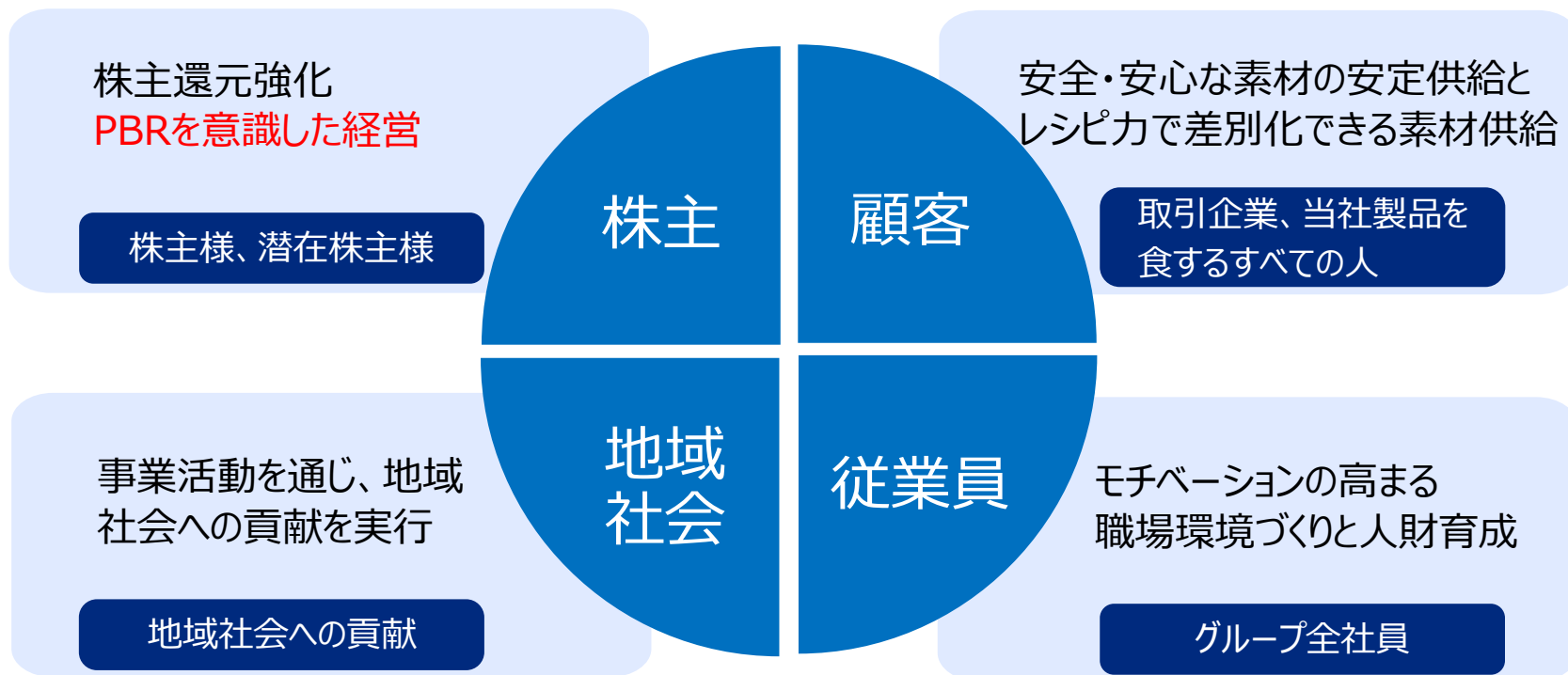
2024年7月20日

目次

I	会社概要	P 2
II	成長戦略	P14
III	2025/3期業績予想	P21
IV	株主還元	P26
	参考データ	P29

I . 会社概要

100年企業に向けた強固な基盤構築

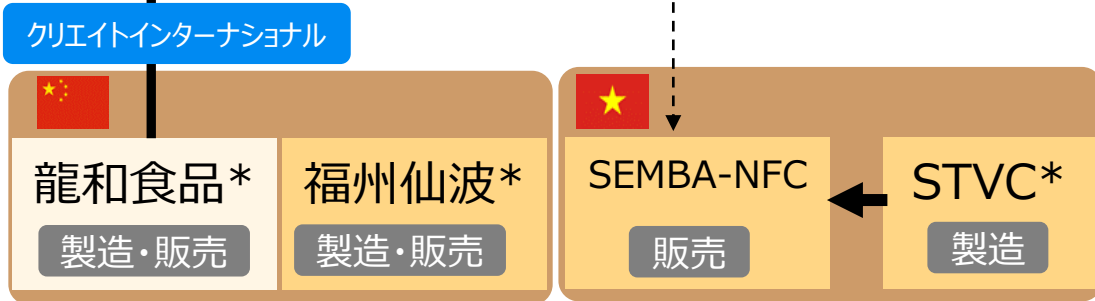
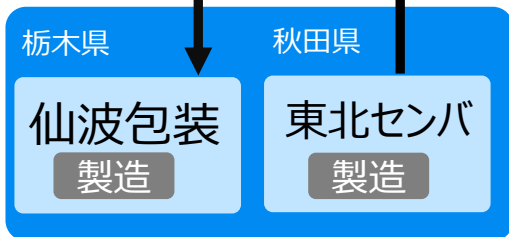


より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす

国内市場

仙波糖化工業

本社：栃木県真岡市
資本金：15億50万円
連結従業員数：599名（24/3末）



海外市場

製品の流れ

STVC* : SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

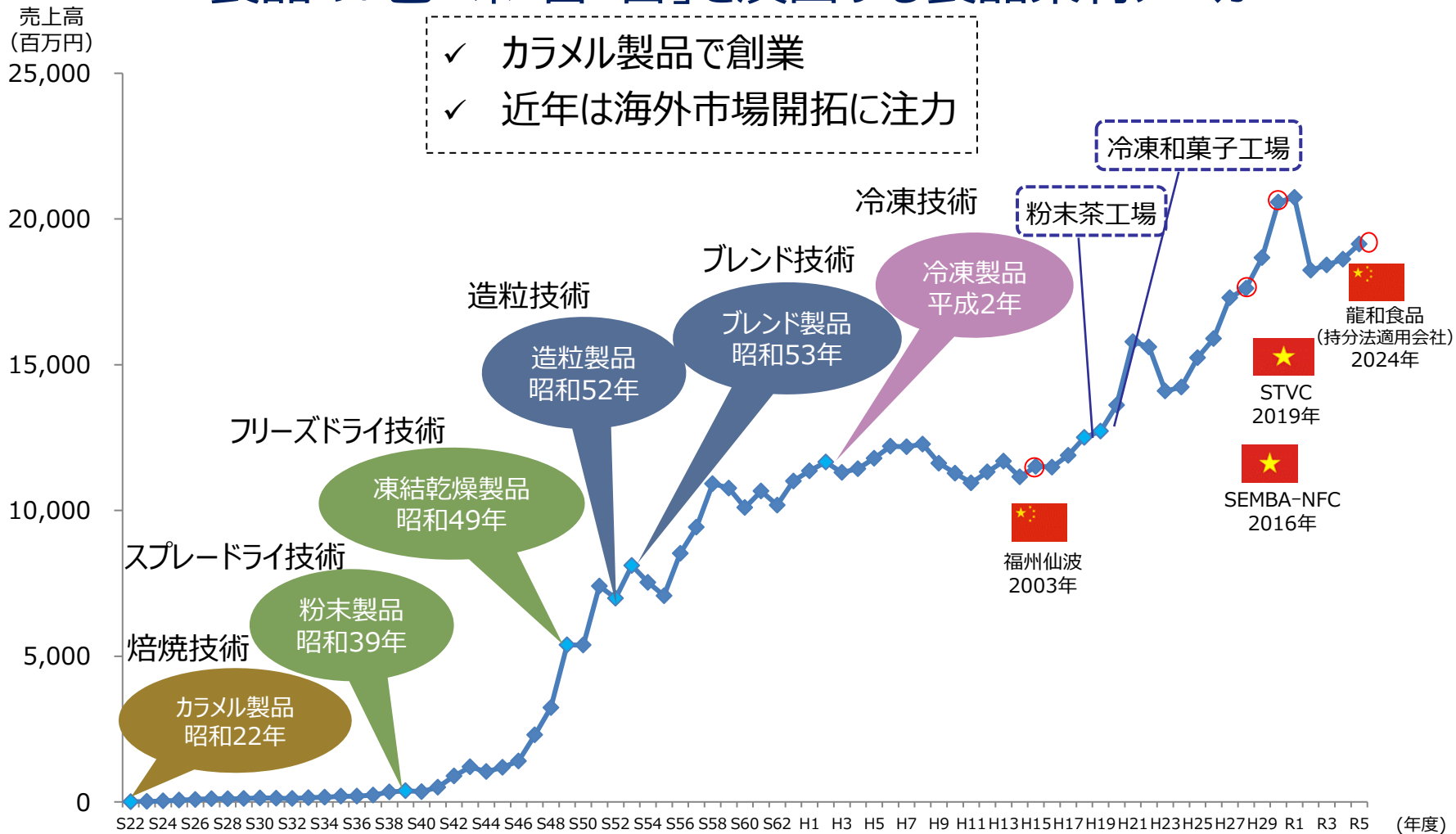
福州仙波* : 福州仙波糖化食品

龍和食品* : 福建龍和食品実業（持分法適用会社）

業容拡大の歴史

食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカー

- ✓ カラメル製品で創業
- ✓ 近年は海外市場開拓に注力



- カスタードプリン、
炭酸飲料・コーヒー牛乳 にも…



- インスタントラーメン にも…



- 粉末茶 にも…



- インスタントコーンスープ にも…



- 即席味噌汁 にも…



- お好み焼き にも…



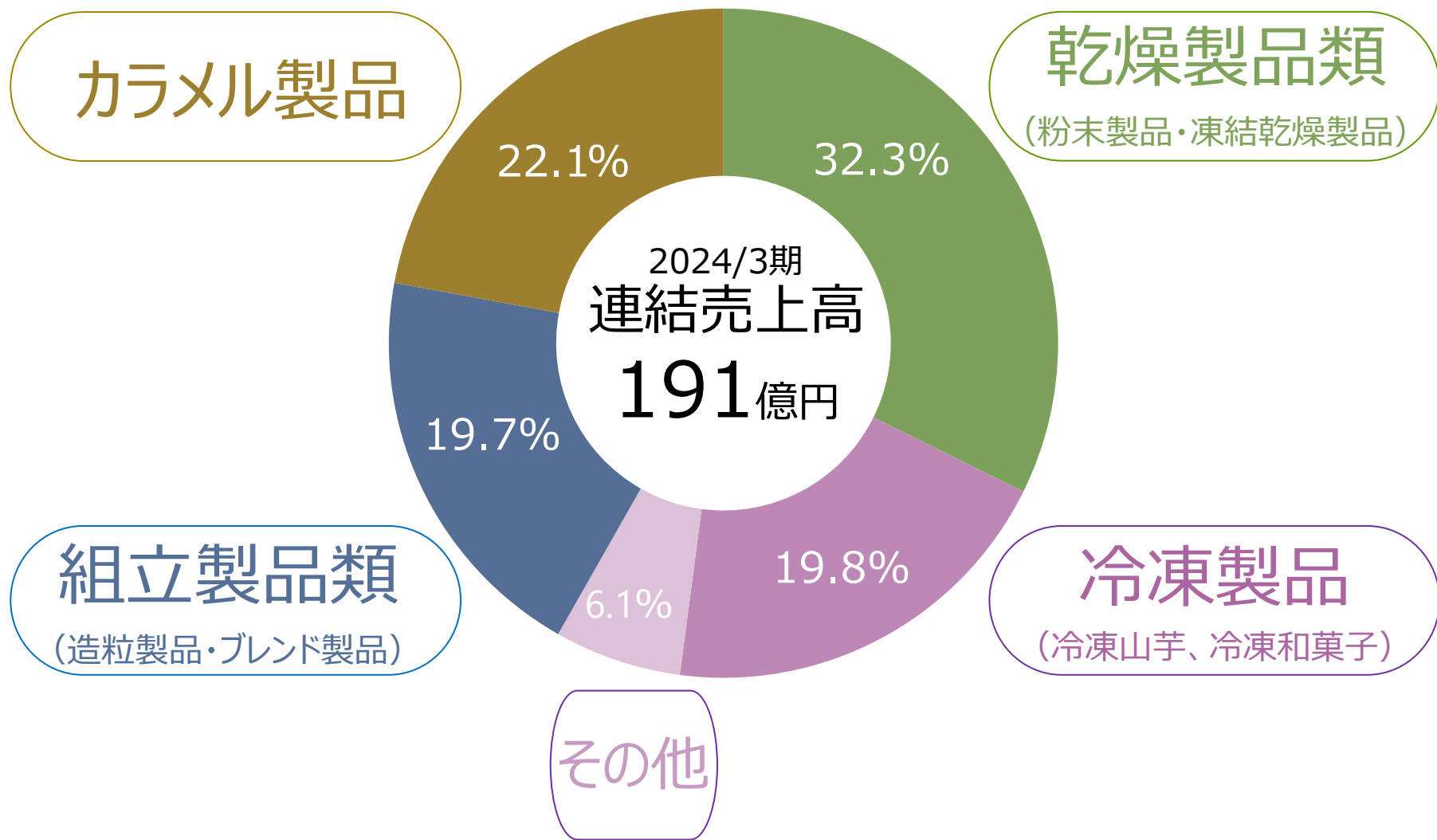
- とろろそば にも…



- 冷凍和菓子製品



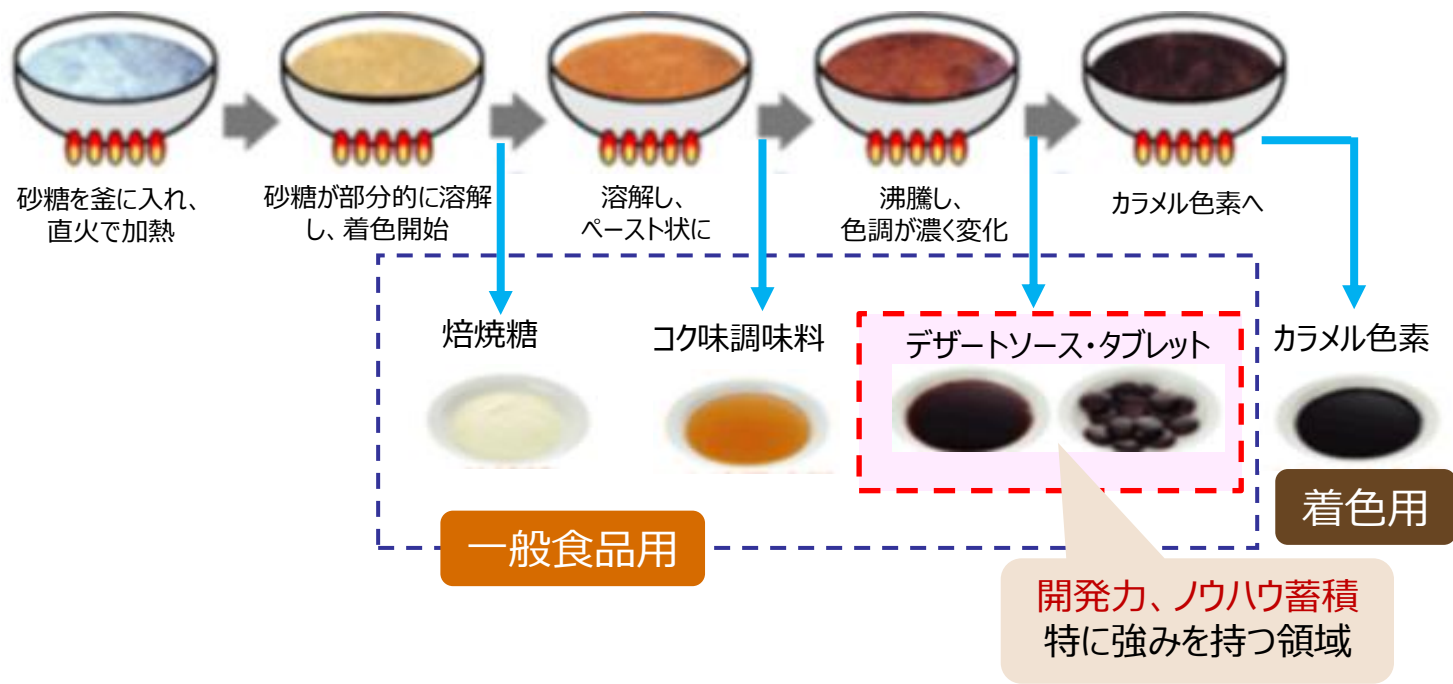
製品区分別売上構成



- 創業商材。国内シェアはトップ
- 高付加価値のデザート・シラップ向け新製品の開発に注力
- 海外顧客の取り込み強化で成長を目指す

焙焼技術とは

糖を独自のノウハウで加熱し、多用途な製品を作り分ける。
 キャラメル製品は用途に応じて液状製品と固形製品に大別される。



海外市場取り込みと食品向けの拡販に注力

着色用

- 清涼飲料やアルコール飲料の飲料向け
- ソース、カレー等、幅広い需要

一般食品用

- プリン等のデザート向けやココ味調味料向けが主力
- 高級洋菓子やアイスクリーム向け好調

一般食品向け製品例

キャラメルソース
(ボトル品) (顆粒品)



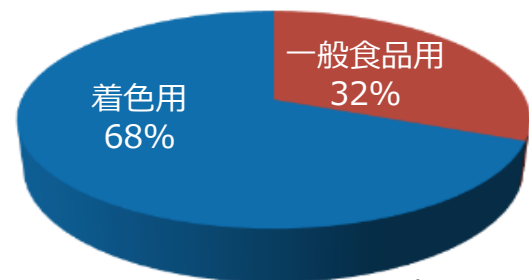
キャラメルソース
(タブレット)



キャンディー・チップ



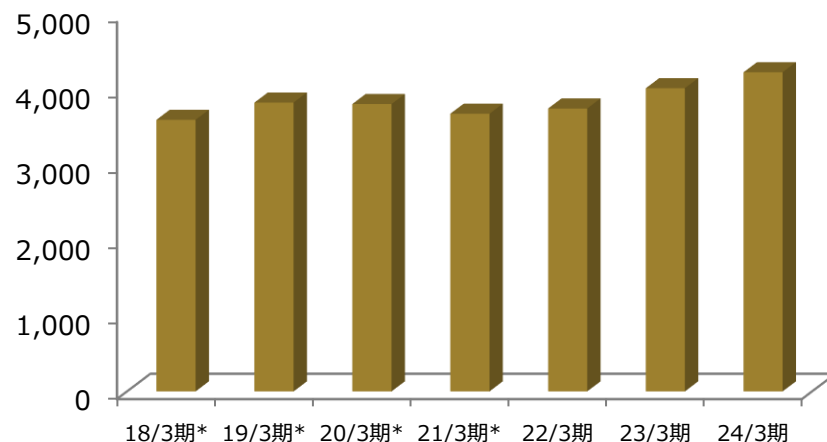
用途別キャラメル製品売上構成



(2024/3期)

(百万円)

【キャラメル製品売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

- 売上高の約80%は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料（味噌や醤油）などを販売
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力

当社の主力製造技術

粉末製品

スプレードライ(SD)技術

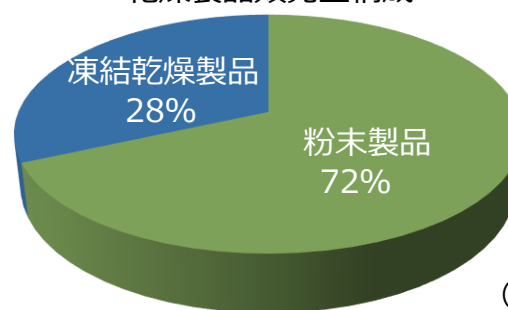
液状化した原料を霧状にし、加熱空気で瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

フリーズドライ(FD)技術

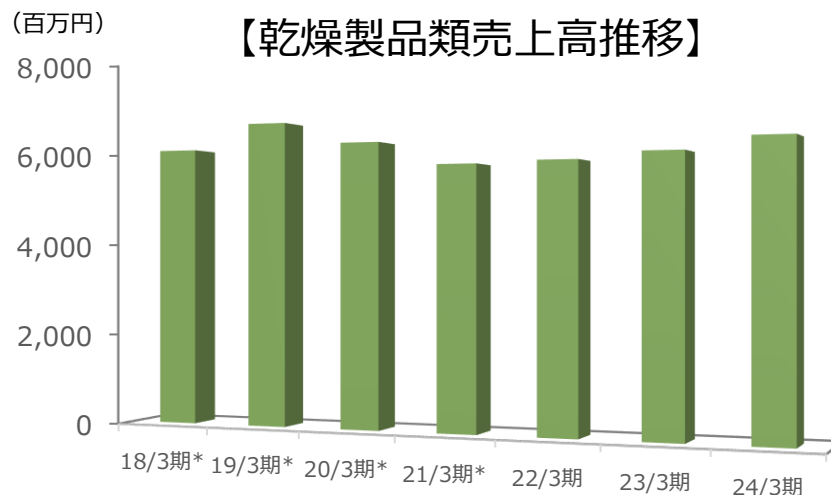
凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなうことなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

乾燥製品類売上構成



(2024/3期)

【乾燥製品類売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

【国内市場向け】

粉末製品例



凍結乾燥製品例



粉末山芋 野菜ブロック

【海外市場向け】

粉末製品例



抹茶ラテ

凍結乾燥製品例



野菜ブロック

聖シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】



稀シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】



【紅茶】



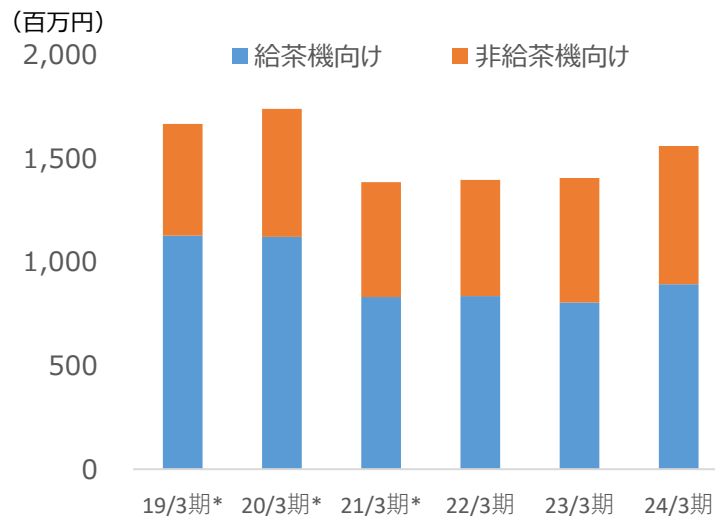
【玄米茶】



【麦茶】



【給茶機向けが回復傾向の粉末茶売上高】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

- 冷凍和菓子はメディケア市場向け中心に、約50種類を販売
- 冷凍山芋は業務用・CVS向け中心。取扱量は業界2位

【冷凍和菓子】

どら焼きやドームケーキの拡販続く



【参考：海外市場向け製品】

海外売上高は、中国子会社の持分法適用会社化（2024年5月）で今期2Qから売上計上がなくなる



【タピオカ】



【求肥】

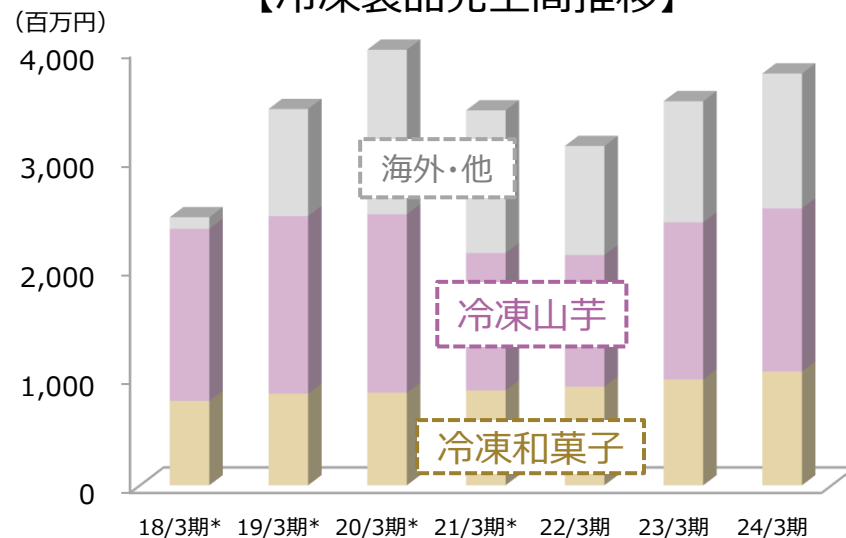


【白キクラゲ】

冷凍山芋



【冷凍製品売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

- 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心
- 溶け易くななどのキーワードで提案営業を強化
- 24/3期はスポーツサプリ受託が大幅に落ち込む

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使い易い最終商品へ仕上げる。

造粒製品

スープ類、健康食品、スポーツ飲料、ココア等



ブレンドとは

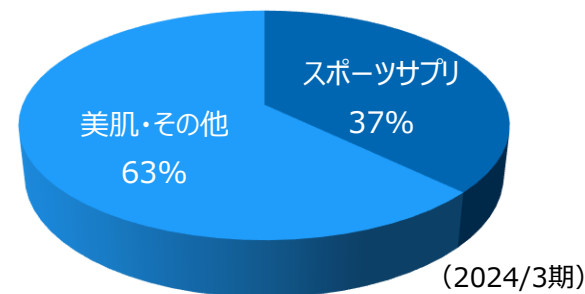
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

ブレンド製品

小麦粉ミックス、唐揚げ粉、みそ汁、粉末エキス等

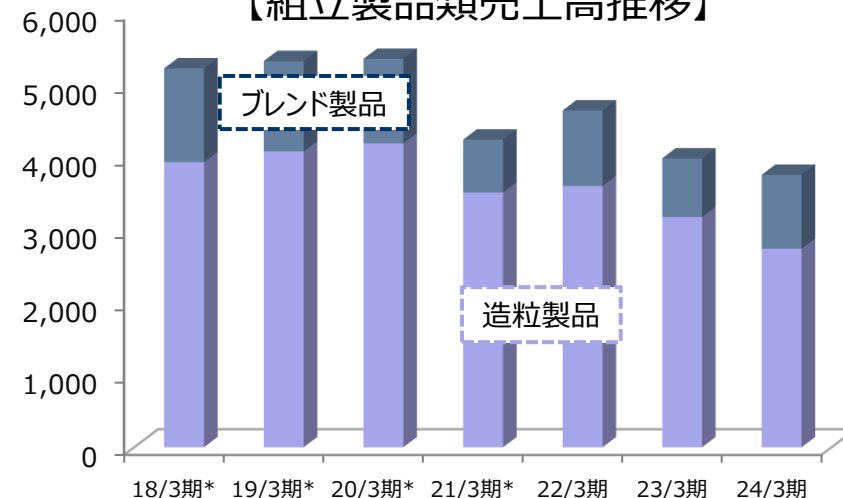


健康食品の売上構成



(百万円)

【組立製品類売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

Ⅱ. 成長戦略

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$

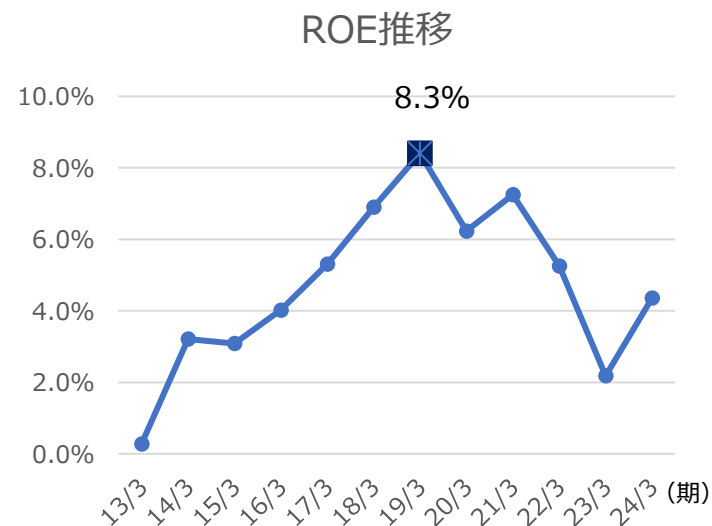
現状のPBRは、0.7倍程度

- ROEがピークとなった19/3期中の2018年8月には、PBR1.5倍を記録
- 前期のROEは4.4%と回復するも水準は低い



主にROEを高めることでPBRの向上を図る

- ✓ ROE向上は、営業利益の拡大で達成させる
- ✓ PER改善は、投資家との対話強化が必要と認識
⇒ 中期的な成長戦略や投資家が収益構造等を理解し易い情報開示を目指す



基本戦略

グループ経営力強化

- ◆ 単体経営からの脱却
- ◆ 子会社の管理強化

自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

海外市場開拓

- ◆ 東南アジア市場向け

営業キャッシュフローの最大化を目指す

成長投資資金の確保と還元強化

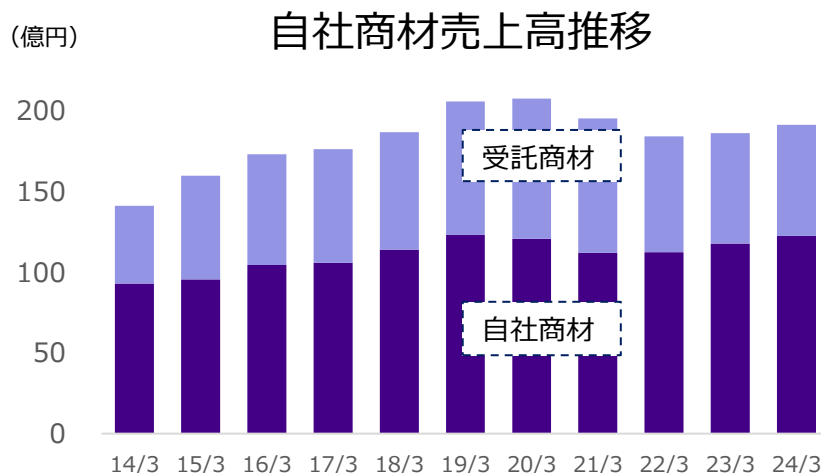
注) 営業キャッシュフロー = 営業利益 + 減価償却費

海外事業戦略の一部見直し

中国事業は、中国向け自社商材の開発が計画通り進まず、パートナーに経営権を移譲。日本向け製品の供給は継続へ。

基本戦略の進捗状況

自社商材拡販で営業キャッシュフロー改善

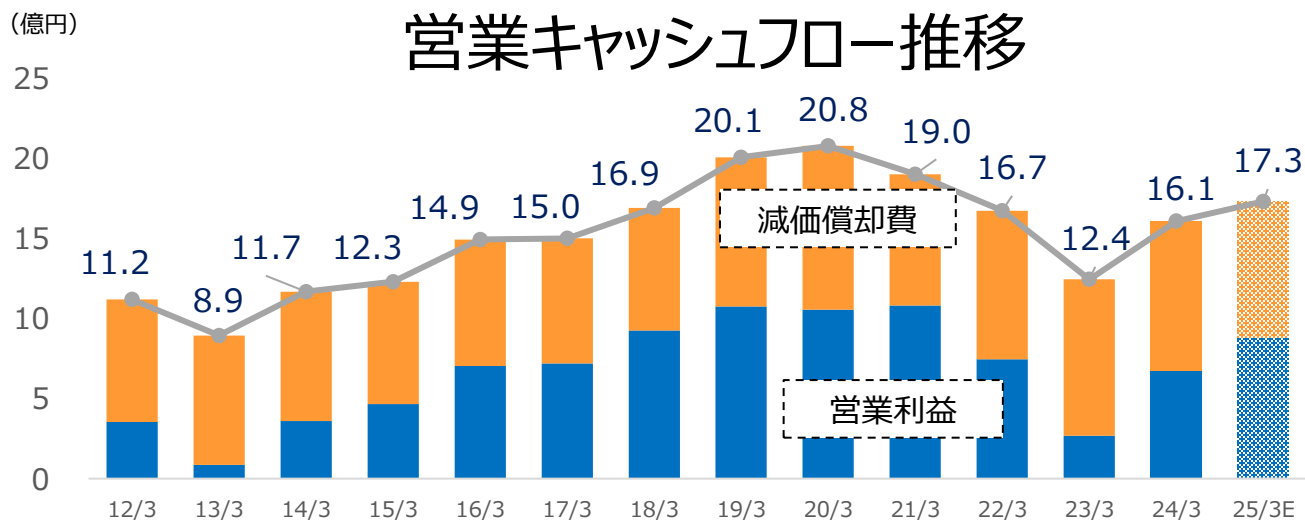


海外市場向け売上高推移

（単位：百万円）

	18/3*	19/3*	20/3*	21/3*	22/3	23/3	24/3
海外売上高*	264	1,497	1,403	1,304	1,338	1,520	1,795
海外売上比率*	1.4%	7.3%	6.8%	7.2%	7.3%	8.2%	9.4%
海外子会社*	225	1,465	1,342	1,281	1,315	1,496	1,767
輸出*	39	32	61	23	23	22	27

（注*）20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値



重点施策

前期の主要施策

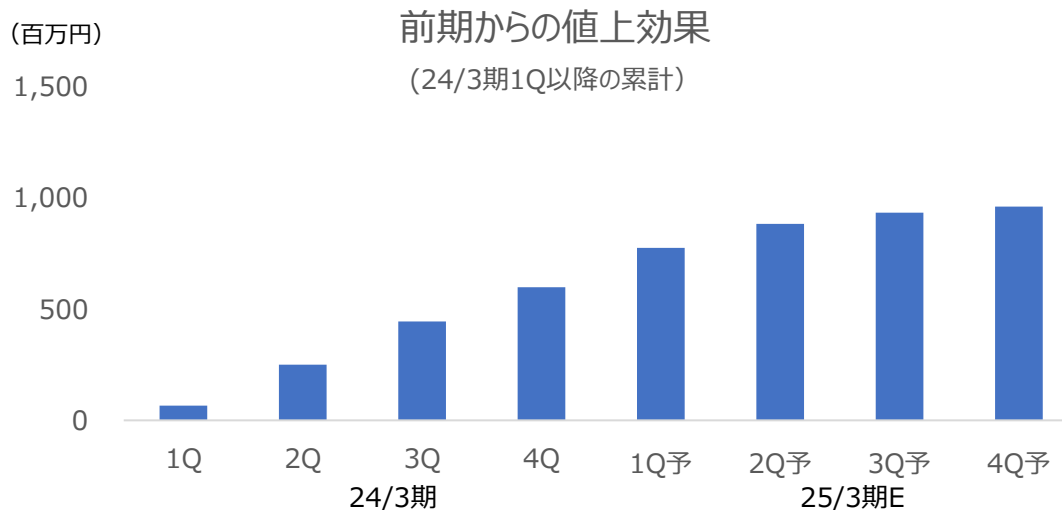
- ◆ 自社商材拡販対応：冷凍和菓子の生産能力増強
- ◆ 値上げ対応：徐々に浸透するが、冷凍山芋は遅れ

今期の重点施策

①ステルス値上げの影響を受けない新自社商材の開発・上市

②中国事業の見直し及びベトナム事業の早期黒字化の達成

③継続的な値上げ



海外事業の概況

前期までの実績

中国事業は黒字転換果たすも、ベトナム事業の黒字化は遅れる

中国事業

- ・FD製品減少を受託商材の冷凍デザート拡販で吸収し、売上計画達成
- ・ユーティリティーコスト低下と為替リスクを親会社へ移したことで営業黒字に転じる

ベトナム事業

- ・SD設備が稼働開始したが、納入の期ズレで計画未達
- ・出向者増も含め、現地従業員の採用も進む

【海外事業収益】

(単位：百万円)

	22/3期	23/3期	24/3期		25/3期
			実績	予想	
中国事業					
売上高	2,255	2,375	2,628	2,473	160
営業利益	▲46	▲204	10	▲1	▲5
ベトナム事業					
売上高	122	154	256	377	501
営業利益	▲68	▲123	▲50	6	35
【為替レート】					
(¥/元)	17.03	19.48	19.82	20.00	21.5
(¥/VND)	0.004908	0.005728	0.006022	0.005913	0.006022

【海外事業従業員】

(単位：人)

	従業員数 (臨時雇用者除く)		出向者	
	22/12 末	23/12 末	22/12 末	23/12 末
福州仙波	10	11	中国事業	
龍和食品	106	100	8	4
SEMBA-NFC	4	5	ベトナム事業	
STVC*	33	40	4	6

STVC*:SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

今後の海外事業

中国事業

龍和食品

子会社⇒持分法適用会社に（日本向けFD製品の供給継続）

福州仙波

【生產品目】

粉末製品

キャラメル製品

上海事務所



聖域なくビジネスモデルを見直す

ベトナム事業

SD（粉末製品）設備の本格稼働で黒字転換を見込む

【製造子会社】

STVC

(100%出資)

【生產品目】

粉末製品

キャラメル製品

【販売子会社】

SEMBA-NFC

(60%出資)

STVC社の生産計画

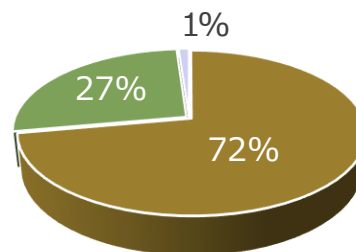
【24/3期】

(金額ベース)

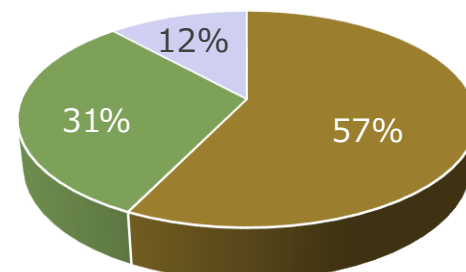
【25/3期計画】

2.3億円

5.3億円



■キャラメル製品 ■SD製品 ■ブレンド製品

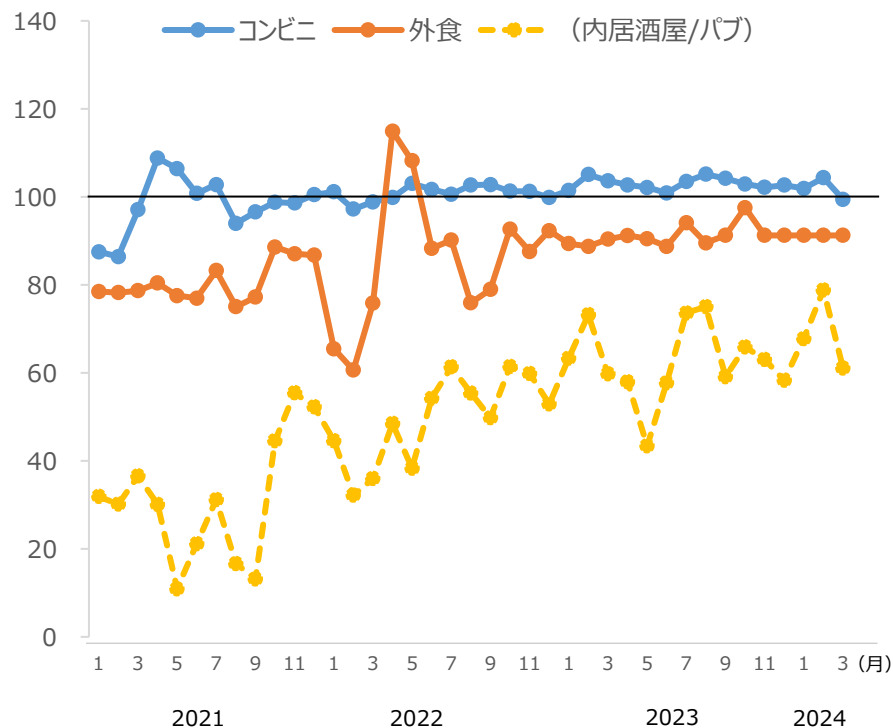


■キャラメル製品 ■SD製品 ■ブレンド製品

Ⅲ 2025/3期の業績予想

【コンビニ及び外食来店客数推移】(全店ベース) (2019 = 100)

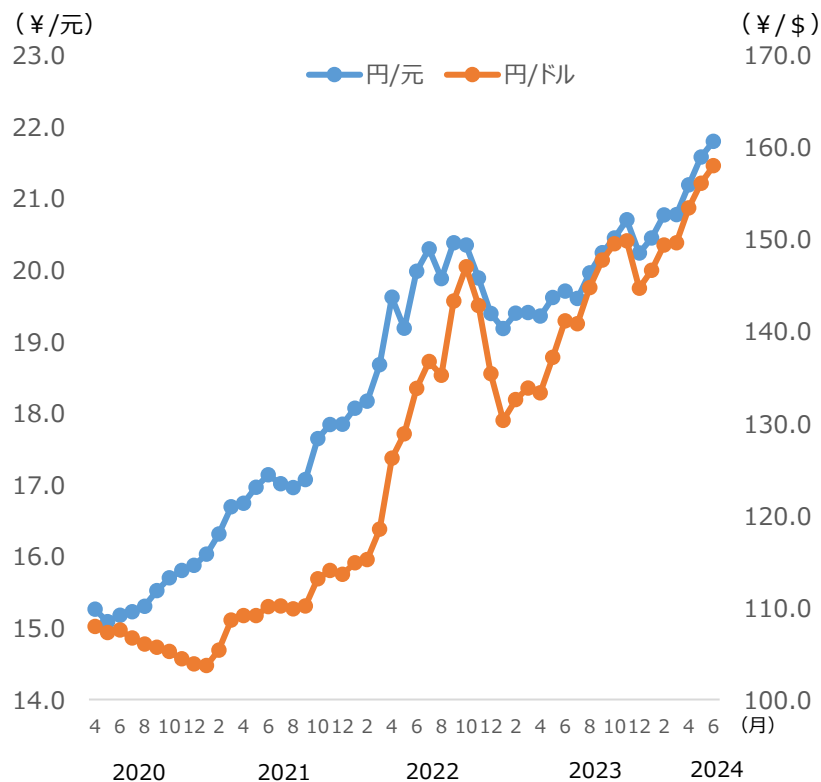
居酒屋/パブ来客数は店舗数減の影響で回復途上



(出所) 日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会

【為替推移】

日銀の為替介入あるも円安が加速し



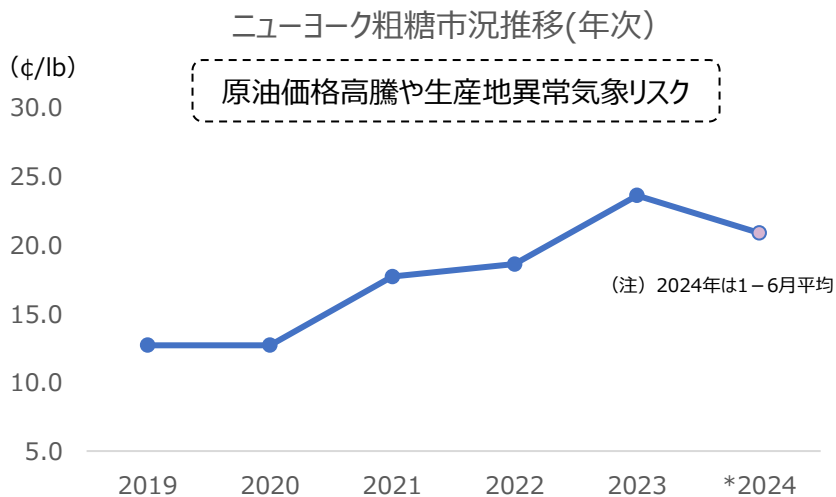
(出所) 日本経済新聞

当面の懸念材料

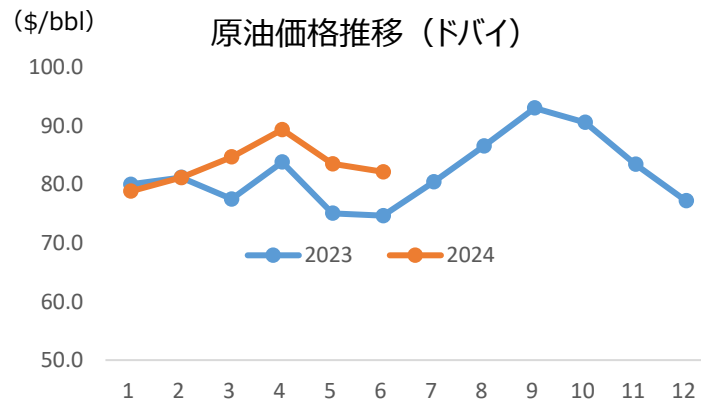
懸念材料

- ①円安進行に伴う更なるコスト上昇
- ②食品会社の値上げに伴う販売量減少懸念

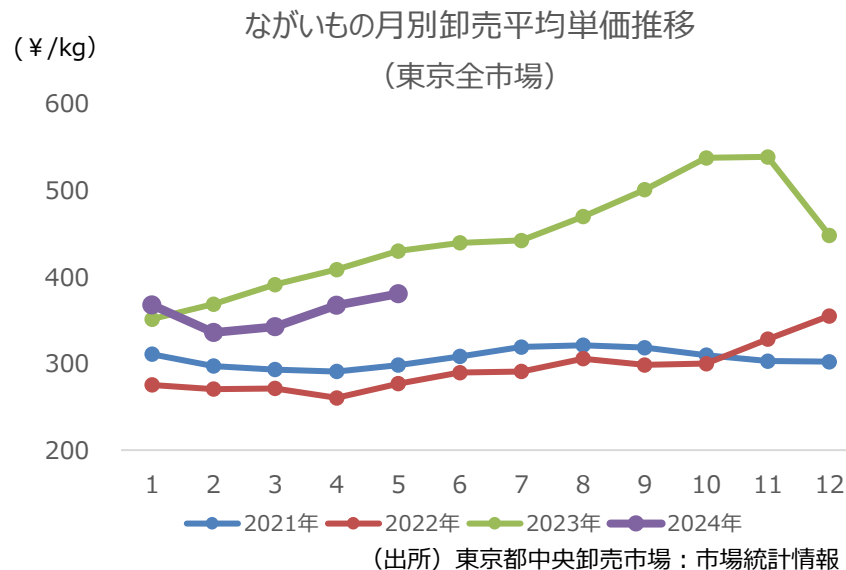
【カラメル製品原料】



【ユーティリティーコスト】



【冷凍山芋、FD山芋などの原料】



製品区分別売上高予想

- ✓カaramel製品は、国内需要堅調と海外需要取り込みを見込む
- ✓乾燥製品類は、業務用粉末や即席麺向け製品の回復を計画
- ✓組立製品類は、健康食品受託加工が底打ちへ
- ✓冷凍製品は、国内冷凍和菓子堅調だが海外売上高減少

(単位：百万円)

	2024/3期			2025/3期予想*			
	上期	下期	通期	上期(予)	下期(予)	通期(予)	伸び率
売上高	9,442	9,694	19,137	9,500	10,300	19,800	+3.5%
カaramel製品	2,057	2,174	4,231	2,200	2,600	4,800	+13.4%
乾燥製品類	2,912	3,272	6,184	3,030	3,620	6,650	+7.5%
組立製品類	1,818	1,945	3,763	1,840	2,160	4,000	+6.3%
冷凍製品	2,090	1,691	3,782	1,840	1,310	3,150	▲16.7%
その他	563	612	1,175	590	610	1,200	+2.1%

*注) 龍和食品の持分法適用会社への移行で、冷凍製品と乾燥製品合計で年間ベースの売上高は約13億円減少
25/3期予想では、持分法適用会社への移行に伴い、2Q以降で9.5億円の減少を織り込み

業績予想

- ✓円安進行でコストは上昇するも、値上浸透とベトナム事業の黒字転換で営業利益は27.4%増益を予想
- ✓為替差益が無くなるものの、経常利益は19.2%増益へ

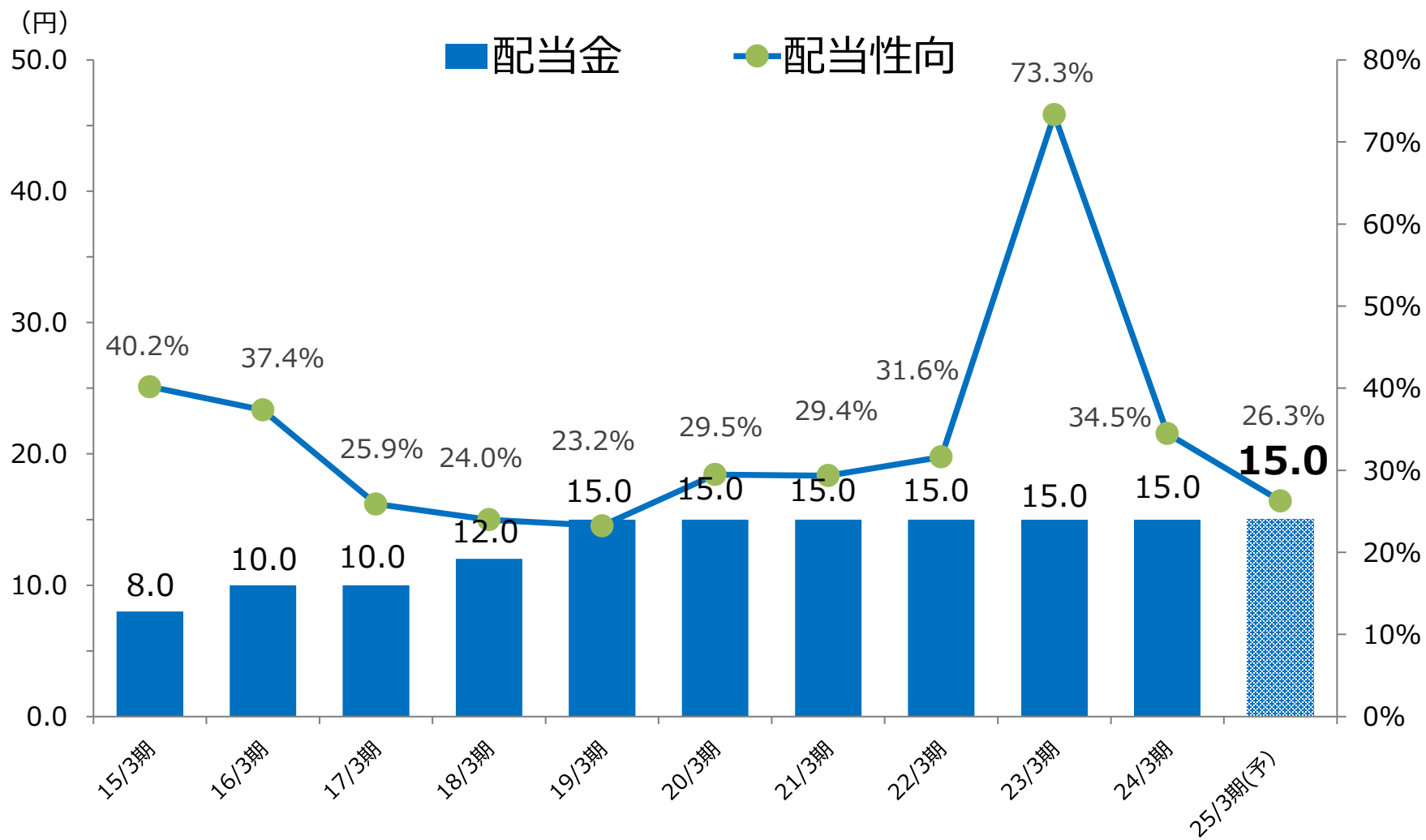
(単位：百万円、円)

	2024/3期			2025/3期予想			
	上期	下期	通期	上期 (予)	下期 (予)	通期 (予)	伸び率
売上高	9,442	9,695	19,137	9,500	10,300	19,800	+3.5%
営業利益	259	431	690	320	560	880	+27.4%
経常利益	386	369	755	325	575	900	+19.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	303	192	495	225	425	650	+31.2%
1株純利益	26.70	16.82	43.52	19.75	37.34	57.09	-
設備投資額			576			1,126	
減価償却費			932			851	
研究開発費			271			304	

〈為替レート前提〉 24/3期:19.82円/元、145円/ドル元、25/3期(予) : 21.5円/元、155円/ドル

IV. 株主還元

配当金予想



株主優待

対象となる株主様

9月30日現在、5単元（500株）以上保有の株主様が対象。

優待内容



※2023年12月の優待品

3年未満保有の株主様
自社製品 **3,000円相当**



【12月上旬】



※2024年7月の優待品

3年以上保有の株主様
自社製品 **6,000円相当**



(3,000円相当×2回)

【12月上旬】・【7月上旬】



参考データ

SDGs宣言を発表

SDGs宣言
仙波糖化工業株式会社
2023年12月8日

当社は食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカーです。1946年の創業以来、様々な技術で食の世界を支えています。当社の事業を通じたSDGsの達成に向け、下記の取り組みを実施していくことを宣言します。

資源循環型社会への貢献

- フードロス削減の取り組み推進
- フードバンクへの食品寄贈
- 製造過程で発生する食品廃棄物の資源再利用を徹底
- 食品安全マネジメントシステム規格FSSC22000認証に基づく安全な食品の継続的な提供

環境配慮型経営の実現

- CO₂排出量の測定・削減取り組み
- 工場・事務の省エネ化
- 再生可能エネルギー活用の検討
- 電子決済等ペーパーレス化の推進
- 工場排水処理の徹底による環境負荷低減

人的資本に係る対応

- 女性の総務職への積極登用
- 育児休暇取得推進
- とちぎ健康経営事業所認定取得・維持
- 定期健康診断・二次検診の再受診率100%
- 障がい者雇用の促進

SDGs経営の実装

- SDGs取り組み内容の公表
- SDGsの理念に沿った経営理念・経営目標の明文化
- 研修やワークショップによる全社員のSDGsへの理解促進
- 地元高校生のインターンシップ実習受け入れ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsは、2015年に採択された「持続可能な開発目標」です。17の目標と169のターゲットが掲げられており、2030年までに達成すべき、全人類の共通のゴールとして掲げられています。

持続可能な社会の実現と、当社グループの持続的な成長および企業価値の向上に向けた取り組みとして、SDGs・ESGプロジェクトを発足させ、2023年12月には、「SDGs宣言」を発表しました。当社の事業活動を通して、資源循環型社会への貢献、環境配慮型経営の実現、人的資本に係る対応、SDGs経営の実装に取り組み、社会的課題の解決に向けてSDGsの達成を目指すとともに、取り組み内容をステークホルダーの皆さまに発信してまいります。

◆ フードバンクへの食品寄贈

品質には問題ないものの、お客さまへの出荷期限が過ぎてしまった当社の製品、主にどら焼きやドームケーキなどをフードバンクに寄贈する活動を行っております。

◆ 健康経営の推進



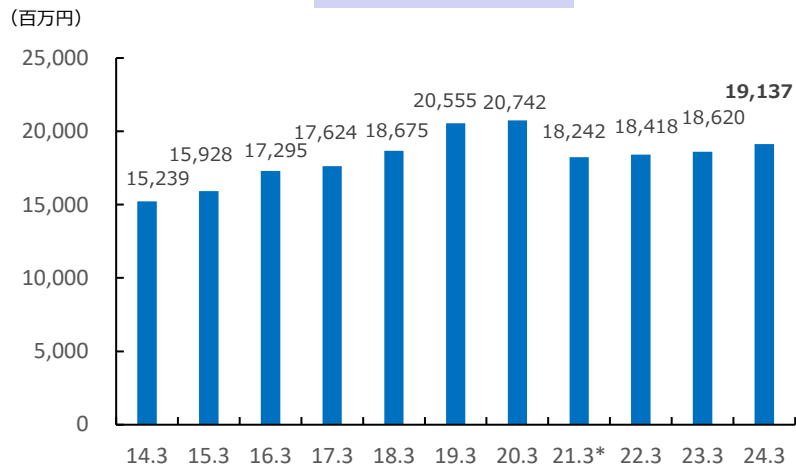
本社所在地の栃木県では、働く世代の健康づくりを推進するため、従業員の健康づくりに積極的に取り組む事業所を「とちぎ健康経営事業所」として認定しており、当社も健康経営の取り組みを通じて、その認定を受けております。



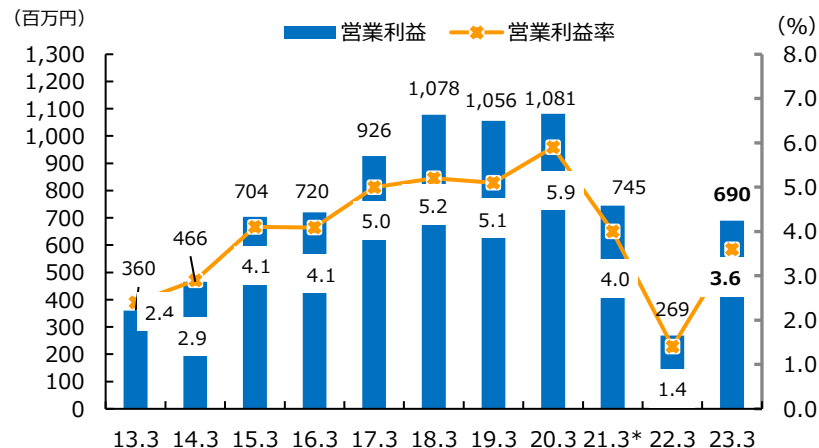
- 1946年 10月 栃木県真岡市に創業、カaramelの製造販売開始。
- 1963年 5月 スプレー・ドライヤーを新設し、粉末食品の生産開始。
- 1967年 7月 茨城県水戸市に工場を新設。
- 1971年 11月 真岡工業団地に真岡第二工場を新設。
- 1972年 5月 太陽食品包装株式会社設立。(現：仙波包装株式会社)
- 1974年 3月 真岡第二工場の第2期増設完了。フリーズ・ドライ製品の生産開始。
- 1977年 9月 本社工場に造粒設備を新設。
- 1979年 9月 スプレー・ドライヤー及び造粒設備増強のため真岡第三工場を新設。
- 1988年 9月 水戸工場を真岡第三工場へ移転。
- 1990年 7月 株式会社東北センバを設立し、冷凍山芋の生産開始。
- 1991年 1月 福建龍和食品実業有限公司を共同で設立。
- 1994年 11月 資本金13億4,050万円に増資。日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2001年 8月 資本金15億50万円に増資。
- 2003年 11月 福州仙波食品有限公司(現：福州仙波糖化食品有限公司)を設立。
- 2006年 4月 真岡第二工場に昆布エキス製造工場を新設。
- 2006年 9月 真岡第二工場に粉末茶製造工場を新設。
- 2007年 4月 冷凍和菓子の生産開始。
- 2007年 8月 真岡第二工場に鰹節エキス調味料設備を新設。
- 2011年 5月 真岡第三工場スプレー・ドライヤーS&B。
- 2012年 11月 株式会社東北センバ大館新工場稼働。
- 2016年 10月 SEMBA-NFC設立。
- 2017年 4月 真岡第二工場焙焼製品新工場稼働。
- 2018年 1月 福建龍和食品実業有限公司を子会社化。
- 2019年 3月 SEMBA TOHKA VIETNAM設立。
- 2021年 9月 ベトナム新工場完成
- 2024年 5月 福建龍和食品実業有限公司を持分法適用会社へ

主要財務データ①

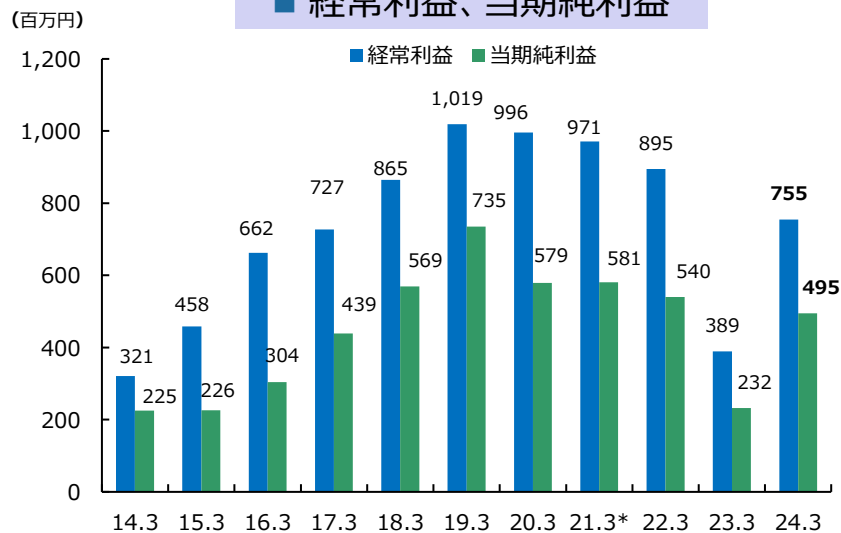
売上高



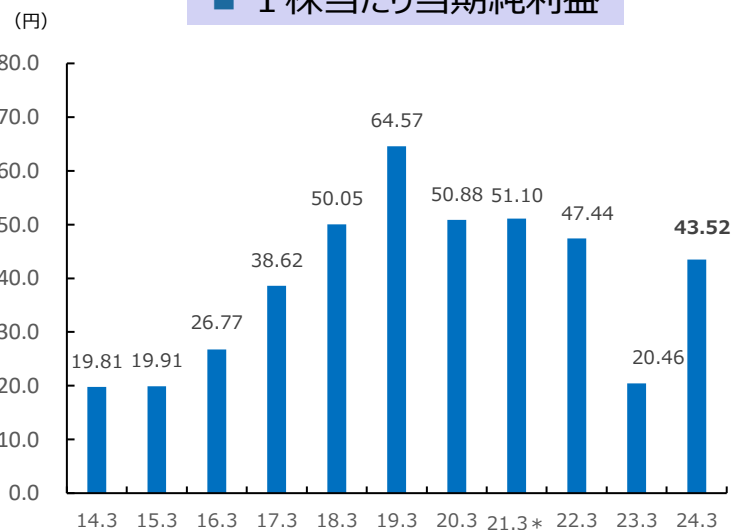
営業利益



経常利益、当期純利益



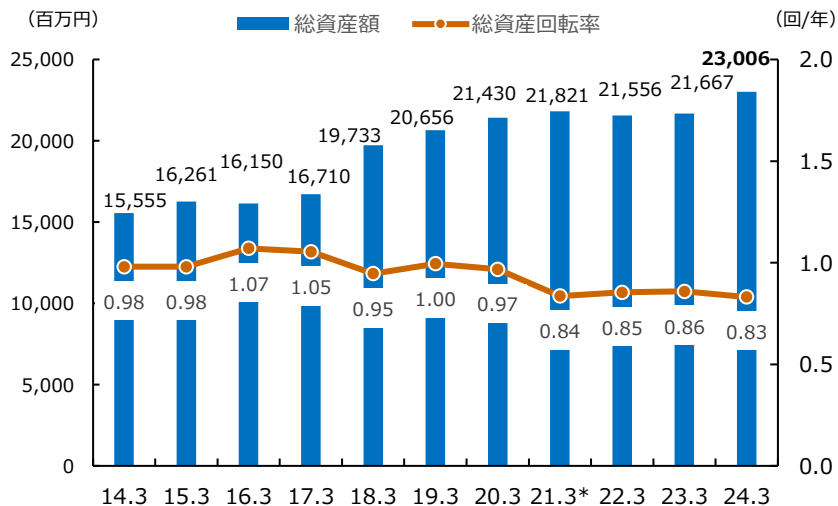
1株当たり当期純利益



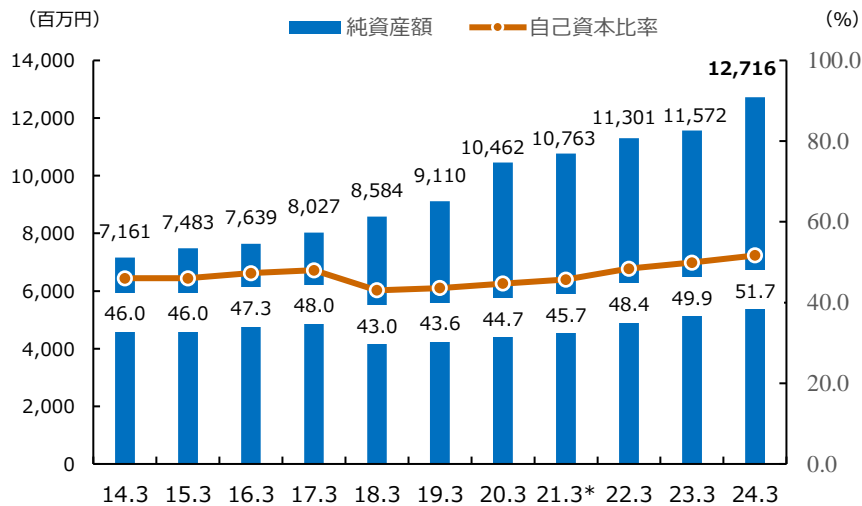
(注*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

主要財務データ②

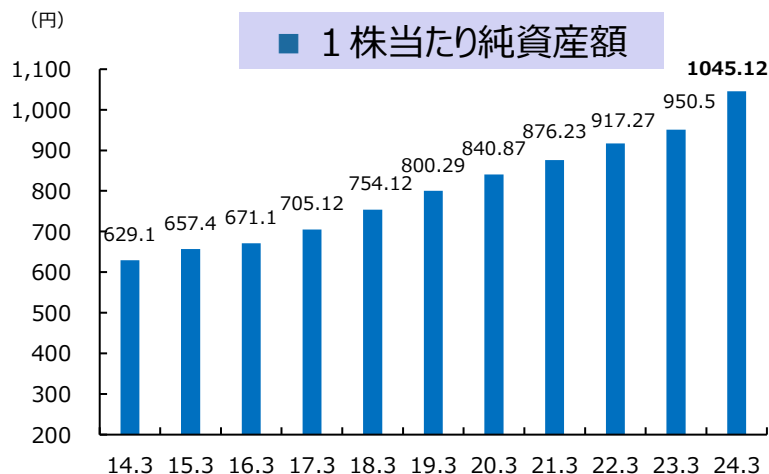
■ 総資産、総資産回転率



■ 純資産額、自己資本比率



■ 1株当たり純資産額



(注*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

〈お問い合わせ先〉
仙波糖化工業株式会社
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : ir@sembatohka.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。